



SHINTOKU KUSO NO MORI  
FILM FESTIVAL 2018

第23回 SHINTOKU

# 空想の森 映画祭

〈会期〉

2018年

9月15日(土) → 17日(月・祝)

〈会場〉

新内ホール(旧新内小学校)北海道上川郡新得町字新内

〈入場料〉

- 3日間通し券・3,000円  
(パーティー以外のすべてのプログラムに入場出来ます。)
- 1日券・2,000円
- 1プログラム券・1,500円
- ★ 森口豁監督プログラムは各部・1,500円

\*パーティーは別料金(1,000円)  
\*前売り券は発行いたしません。  
当日、会場の受付でお求めください。  
\*パーティーを除くすべてのプログラム  
高校生以下無料。

■ お問い合わせ

☎ 090-8278-6839  
(藤本)

☎ 090-8708-6334  
(芳賀)

■ 会場直通(会期中のみ)

☎ 0 56-64-3 6 (新内ホール)

<http://kuusonomori.com/>

★ ボランティアスタッフ募集!  
★ 出店者も募集しています。

主催 ● SHI TOKU 空想の森映画祭実行委員会  
共催 ● 北海道新聞帯広支社  
後援 ● 新得町・新得町教育委員会

Graphic by Nekomataya





第23回  
SHINTOKU

# 空想の森映画祭

前夜祭 ●14日(金) ●18:00~20:30

●18:00~18:35

ドキュメンタリー+監督トーク

ドキュメンタリー ● **SAVE HENOKO** (35分/韓国語字幕版)  
藤本幸久・影山あさ子共同監督作品/2018年/森の映画社  
& オープニングパーティー



土砂投入が迫る辺野古の海

©沖縄ドローンプロジェクト

辺野古の今を伝える国際キャンペーン作品として、森の映画社が製作。スタッフは、藤本幸久・影山あさ子・中井信介。日本語版の他に英語字幕版・韓国語字幕版・中国語字幕版をつくりアメリカや近隣諸国で上映中。

**藤本幸久・影山あさ子**

2004年から共同で辺野古の取材・撮影を開始。辺野古や高江の新基地建設、アメリカの基地と戦争の取材を続けている。2014年7月の辺野古新基地建設着工からは、撮影スタッフとともに現場に張り付いている。



■共同作品に「Marines Go Home - 辺野古・梅香里・矢白別」(2005年)、「アメリカばんざい」(2008年)、「アメリカ戦争する国の人びと」(2009年)、「ONE SHOT ONE KILL international version」(2011年)、「ラブ沖縄@辺野古・高江・普天間」(2012年)、「圧殺の海」(2015年)、「圧殺の海 第2章「辺野古」」(2016年)、「高江一森が泣いている」(2016年)、「高江一森が泣いている2」(2016年)、「This is a オスブレイ」(2017年)、「This is a 海兵隊」(2017年)、「辺野古ゲート前の人びと」(2017年)、「SAVE HENOKO」(2018年)

## 1日目 ●15日(土) FUKUSHIMA DAY

●10:00~11:30

ドキュメンタリー+監督トーク

ドキュメンタリー ● **宮古島** (仮題/60分・予定) + 監督トーク  
藤本幸久・影山あさ子共同監督作品/2018年8月完成予定/森の映画社



▲ミサイル基地建設現場のゲート前で歌い、踊り、抗議活動をする人びとと自衛隊のミサイル基地建設に揺れる宮古島の最新ドキュメンタリー。基地建設に反対する人びとの思い。それぞれにゆずれない原点が存在する。漁師の村への空襲、ハンセン氏病療養所での飢餓とマラリア、無実の祖父を拷問した憲兵、自分の村から戦争が始まることを拒否するメロン農家。かつての戦争と未来の戦争が重なる宮古島の現在。

●12:30~19:00

ドキュメンタリー+監督トーク

ドキュメンタリー ● **福島は語る** (5時間30分・完全版) + 監督トーク  
土井敏邦監督作品/2018年



原発事故から7年が過ぎました。日本は、2020年の東京オリンピックに向けて浮き足立ち、福島のことは「終わったこと」と片づけようとしているように感じます。しかし、原発事故によって人生を変えられてしまった十数万人の被災者たちの心の傷は疼き続けています。100人近い被災者たちから集めた証言を丹念にまとめました。その「福島の声」を、忘却しつつある日本社会に届けたいと願い、この映画を制作しました。(2018年/全11章 330分)



- |                 |                   |
|-----------------|-------------------|
| 第一章「避難」(45分)    | 第七章「汚染」(17分)      |
| 第二章「仮設住宅」(27分)  | 第八章「2つの原発事故」(16分) |
| 第三章「悲憤」(25分)    | 第九章「抵抗」(34分)      |
| 第四章「農業」(36分)    | 第十章「喪失」(42分)      |
| 第五章「学校」(45分)    | 最終章「故郷」(18分)      |
| 第六章「原発労働者」(25分) |                   |

土井敏邦監督 ● プロフィール

1953年佐賀県生まれ。ジャーナリスト。1985年以來、パレスチナをはじめ各地を取材。1993年よりビデオ・ジャーナリストとしての活動も開始。作品に「ファルージャ2004年4月」(2005年)、「届かぬ声—パレスチナ・占領と生きる人びと」全4部作(2009年)、「私」を生きる」(2010年)、「飯館村 故郷を追われる村人たち」(2012年)、「異国に生きる 日本の中のビルマ人」(2013年)、「飯館村 放射能と帰村」(2013年)、「ガザ攻撃 2014年夏」(2015年)、「ガザに生きる」全5部作(2015年)、「記憶」と生きる」(2015年)など。

●20:00~22:00

ライブ

### 新月灯花ライブ



私達は主に1967年から1973年のプリティッシュ・ロックを愛するガールズバンドです！3.11以降毎月福島に通い、地元の高校生たちと参加型路上イベント「福島JuggL」を続けています。高校生たちとのコミュニケーションの中で見えてきた「福島の若者にとっての原発事故」の話なども交えつつアコースティックライブをお届けできたらと思います。



# 2日目●16日(日) OKINAWA DAY 森口豁監督と見る・語る沖縄

司会●ユ・ヨンジャ

第一部●10:00~12:00

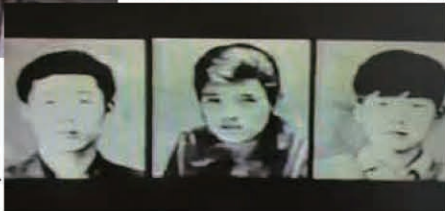
ドキュメンタリー

## 『俺の鉄工所と安保』●1980年/30分



▲厚木基地を見つめる 館野正盛さん

ベトナム戦争さ中の1964年、厚木基地近くの鉄工所に米軍機が墜落、工場を営む館野正盛さんの3人の息子が即死した。愛する息子と工場を一度に失った館野さんは、完全補償を求めて国に掛け合うが、立ち塞がったのは日米地位協定の壁。一家は崩壊し、工場再建も叶わない。



犠牲になった館野正盛さんの3人の息子▶

## 『生き埋めの冬・24年目のスモン患者』●1978年/30分

医師が投与した整腸剤キノホルムによって多発したスモン患者。治療法もなく自殺に追い込まれた患者も少なくない。患者たちは国と製薬会社を相手取り訴訟に乗り出した。下半身不随の市岡光彦さん(86)、身体だけではなく両眼も失明した三田幸路さん(12)、母親が自殺した中村健作さん(42)。3人を通して薬害行政の冷たさをあぶり出す。



身体は自由ばかりか両眼も失明した▶ 三田幸路さん

第二部●13:00~15:00

ドキュメンタリー

## 『かたき土を破りて』●1971年/30分

1970年12月の深夜、基地の町・コザで起きた住民蜂起「コザ暴動」。忍従の民といわれるウチナンチュが米軍車両80台を次々に焼き放ち、日米両政府に衝撃を与えた。暴動の渦中に身を置き、カメラを回し続けた森口豁。相次ぐ米軍による事件事故の実相と、夜空を赤く染めた「沖縄の怒り」の真因をとらえた渾身のドキュメント。



▲転覆させられた米軍のバトカー

## 『激突死』●1978年/30分



▲上原安隆さんのヘルメットに刻まれた国会正門鉄扉の痕跡

日本「復帰」1年後の1973年5月、沖縄出身の一人の青年が、愛用のバイクで国会議事堂正門に激突、即死した。日夜頭上を米軍の演習弾が飛び交う村で育った青年だった。時速80キロの猛スピード。遺書はなかった。いったい彼はなぜこのような死に方をしたのか。青年の幼馴染みや職場の同僚、そして双子の兄らの証言から見えてきたものは？

第三部●16:00~18:00

ドキュメンタリー

## 『空白の戦史・沖縄住民虐殺35年』●1980年/25分

沖縄戦の渦中で相次いだ日本軍による住民虐殺。本島北部の大宜味村では、中南部から避難してきた婦女子数十人とそのリーダーらが、真夜中に浜辺や山中に連れ出され、スパイ容疑で日本兵に殺された。戦後35年、ようやく口を開き始めた人々たちを取材、事件の真相に迫る。義父を殺された女性と元日本兵の衝撃的な対面が圧巻だ。



▲元日本兵と共に義父の虐殺現場へ向かう被害者

▲元日本兵から義父殺害の様子を聞く被害者の遺族

## 『若きオキナワたちの軌跡』●1985年/50分

戦後間もなく東京郊外にできた沖縄出身学生のための寄宿舎「南燈寮」。米軍政下、渡航もままならない沖縄から「自由」を求めて上京し、この寮で青春を過ごした若者たちの当時と今を、長期間にわたり取材。〈沖縄の魂〉の変遷を描く。画家、弁護士、政治家…、それぞれの生き方から見てきたのは、戦後沖縄の「光と陰」。



### 【森口豁・もりくち かつ】

1937年東京生まれ。私立大を中退して1959年、米軍政下の沖縄に移住。琉球新報社会部記者を経て日本テレビ「沖縄特派員」に。74年、東京転勤後も足繁く沖縄に通い、ドキュメンタリーを作り続けた。93年、退職しフリージャーナリストに。現在「沖縄を語る一人の会」主宰。

●19:30~21:30

ライブ

## 『SAVE HENOKO』完成記念●川本真理コンサート

GUEST★宇井ひろし



### 川本真理 Mari Kawamoto ●プロフィール

ピアノ弾き、料理人。自然や旅、日々のことから作曲し演奏活動をする。2012年ピアノCD「カゼノカミサマノイルトコロ」発表。去年まで3年間イタリアで料理修行しながら、路上のピアノやレストランでライブをする。4月より長野県田原に暮らす。「SAVE HENOKO」の音楽を担当した。

### Guest●宇井ひろし●歌・アコーディオン・ギター

新得町に新規就農して来年で40年、並行して生活から生まれる歌を作る。農閑期にライブツアーを毎年行い映画祭では毎回真理さんに蕎麦刈りを手伝ってもらってから共演、たぶん今回も。





3日目●17日(月・祝) KOREA DAY

呉徳洙監督作品 戦後在日五〇年史

映画「戦後在日五〇年史」製作委員会 / 1997年 / 258分  
(第1部: 歴史編 135分 / 第2部: 人物編 123分)

在日

記録映画

第一部●10:00~12:15 (歴史編)(135分) 上映

第二部●13:00~15:30 (人物編)(123分) 上映

+スタッフの清水千恵子さんトーク



この映画は、1995年、戦後50年を期に製作に着手し、3年余をかけて完成した「在日」の歴史叙事詩的な作品である。この間、50年、「在日」はこの地で生き続け、この社会で様々に語られてきた。ある時は「厄介者」として、又ある時は「偏見と差別の対象」として。けれど、どれ程の人々がその意識と生活実態を知り得ているだろうか？歴史編と人物編、2部構成4時間余りで、その歴史と生き様を感得して下さい幸いです。



ゲストトーク: 清水千恵子

呉徳洙監督と結婚の後、OH企画を設立。主にデスク及び編集を担当。サハリン生まれ、北海道育ち。

呉徳洙(オ・ドクス)監督

秋田県鹿角市出身の在日韓国人2世。大島渚監督の助監督などを務めた後に独立。1980年代の在日韓国・朝鮮人を中心とした指紋押捺(おうなつ)拒否闘争を追った「指紋押捺拒否」や「在日」などの記録映画を手がけた。(2015年12月、74歳で死去)



ムン・ジョンヒョン神父はパク・チョンヒ政権下の1978年に無残にも処刑された「人民革命党」事件に出会い民主化運動に飛び込む。労働者、農民と共に生きる司祭の生活の中で人々の生活を深く理解するに至る。信徒を導く中で米軍による、騒音、環境汚染、犯罪などを知り「平和の風」を立ち上げる。苦痛を受けている各地の人々と共に闘い、生活する。現在はチェジュ島カンジョンに生活の場を移し、毎日ミサを通して平和の道をたゆみなく耕している。

さよならパーティー ●20:00~ (参加費●¥1,000)

★今年も十勝・新得の美味しいものがいっぱいのお立食パーティー、お楽しみに!



すべては夢見ることから  
はじまった

SHI TOKU  
空想の森映画祭は、  
今年で23回目……

韓国からムン神父がやってくる!!!

ドキュメンタリー

16:00~19:00●映画『路上からの平和』上映

+ムン・ジョンヒョン神父トーク(30分・制作 ピョンファパラン)



ドキュメンタリー映画「路上からの平和」(길 위의 평화)(30分・制作 ピョンファパラン(平和の風))。チェジュ(済州島)カンジョンの海軍基地の反対闘争と国家権力の暴力に抵抗し闘い続けてきたムン・ジョンヒョン神父の平和の話。上映後、ムン・ジョンヒョン神父と参加者で会場トーク&ディスカッション。

[アクセス]-----

- 帯広空港より~まずJR帯広駅まで連絡バスで40分帯広駅からJRで約1時間
- 千歳空港より~JR特急南千歳乗換約2時間
- 千歳空港より~道東道経由・十勝清水ICから一般道、約2時間
- 札幌から~JR特急で約2時間、車で約3時間半(高速経由で約2時間半)



★JR新得駅からは約10km、歩くで2時間程かかります。  
JRで新得に到着された方は0156-64-3161(会場直通)まで電話ください。  
タイミングが良ければ、他の誰かの車に便乗できるかも知れません!